

# 原子力発電所の運転および建設状況等

平成 15 年 11 月 5 日現在

## 1. 運転または建設中の発電所

設備容量 運転中：13基 計 1128.5万kW 建設中：1基 計 28.0万kW

(県内で運転中の原子炉13基は全て定格熱出力一定運転導入済)

発電所名		日本原子力発電(株) 敦賀発電所		関西電力(株) 美浜発電所			関西電力(株) 大飯発電所				関西電力(株) 高浜発電所				運転中 発電所 合計	核燃料サイクル 開発機構
		1号機	2号機	1号機	2号機	3号機	1号機	2号機	3号機	4号機	1号機	2号機	3号機	4号機		高速増殖原型炉 もんじゅ
現 状		運転中	定期検査中 (調整運転中)	運転中	定期検査中	運転中	運転中	運転中	運転中	運転中	定期検査中 (調整運転中)	運転中	運転中			
平成 15 年 度	時間稼働率(%)	73.9	74.8	100.0	76.7	80.0	75.9	100.0	100.0	77.2	100.0	60.6	100.0	76.6	84.3	性能試験中 (事故停止中)
	設備利用率(%)	73.6	75.9	101.8	75.7	80.6	75.4	101.2	101.8	78.2	104.3	62.0	103.8	78.5	85.9	
	発電電力量 (億kWh)	13.5	45.2	17.8	19.4	34.2	45.5	61.1	61.7	47.4	44.3	26.3	46.4	35.1	497.8	
運 開 後 累 計	時間稼働率(%)	68.7	82.5	53.3	62.1	75.8	65.1	72.3	88.9	85.5	67.3	68.0	85.5	85.0	70.9	
	設備利用率(%)	65.9	82.1	50.6	60.3	74.5	63.9	71.2	88.5	85.3	65.8	66.4	85.2	84.7	72.2	
	発電電力量 (億kWh)	692	1,394	496	827	1,451	1,619	1,753	1,087	948	1,380	1,344	1,221	1,188	15,617	

## 2. 運転を終了した発電所

発電所名		核燃料サイクル開発機構
項 目		新型転換炉ふげん (16.5万kW)
現 状		廃止措置準備中、定期検査中
稼働期間		S54.3.20 ~ H15.3.29
累 計	時間稼働率	63.8 % (発電停止日時まで)
	設備利用率	62.2 % (発電停止日時まで)
	発電電力量	216 億kWh

(注) 稼働率は平成 15 年 10 月末現在、

累計は営業運転開始以降。

時間稼働率 = (発電時間 / 暦時間) × 100(%)

設備利用率 = (発電電力量 / (認可出力 × 暦時間)) × 100(%)

< 本件に関する問い合わせ先 >

原子力安全対策課 (担当: 宮川)

(県庁内線)2353 (直通)0776-20-0314

<http://www.atom.pref.fukui.jp/>

### 3. 各発電所の特記事項

敦賀発電所 2号機	<p>第13回定期検査(H15.9.5～11月下旬) H15.9.5 0:00発電停止。10.26 16:00原子炉起動、10.27 0:00臨界。10.29 11:00調整運転開始。</p> <p>H15.9.10 加圧器逃がし弁用管台表面にほう酸の析出を発見、スンプ測定の結果、約0.4mmのひび割れを確認。超音波探傷試験の結果、当該弁用管台と加圧器安全弁(A)用管台溶接部の手直し溶接箇所計3ヶ所ひび割れ指示を確認。当該部を切断し破面観察等の詳細調査の結果、応力腐食割れと推定。当該部は耐応力腐食割れ性に優れた690系ニッケル基合金にて溶接し復旧した。</p>
高速増殖原型炉もんじゅ	<p>H7.12.8 中間熱交換器(C) 2次系出口配管からのナトリウム漏えいに伴い、原子炉手動停止。</p> <p>平成15年度設備点検(H15.5.6～H16.1月予定)</p>
美浜発電所 2号機	<p>第21回定期検査(H15.9.12～12月上旬) H15.9.12 1:00発電停止。11.4 17:56原子炉起動、11.5 0:30臨界、11.6 18時頃調整運転開始予定。</p>
高浜発電所 2号機	<p>第21回定期検査(H15.8.1～11月中旬) H15.8.1 23:00発電停止。10.25 2:30原子炉起動、11:00臨界。18:06調整運転開始。</p> <p>H15.10.20 16:42 原子炉起動、23:43 臨界。10.22 15:02 調整運転を開始したが、21:30 頃第3 低圧タービン主蒸気入口配管フランジ部から蒸気漏えいを確認。10.23 1:31 発電停止。2:33 原子炉停止して調査した結果、配管フランジ部とスペーサーの間のパッキンの一部が欠損していることを確認。原因はスペーサーにパッキンを貼付けて取付ける際、スペーサーが斜め吊りとなり、フランジ部とスペーサーが接触し、パッキンの一部がめくれた状態でスペーサーを取付けたため、パッキンのはみ出した部分が蒸気流によって引きちぎられたと推定。対策としてスペーサーに補助吊具を使用して鉛直に吊上げて取付けし、施工後パッキンが正規位置に取付けられていることを測定確認して復旧。</p>
新型転換炉ふげん発電所	<p>第18回定期検査(H15.6.27～H16.3月末)。</p> <p>H15.9.8 トリチウム除去装置建屋で火災警報が発報、現場に立入り後置フィルタ内の燃焼を確認。1時間半後に鎮火。フィルタの燃焼確認試験の結果、250 の空気で燃焼することを確認し、原因は運転モード切替で装置を停止、再起動した際、十分冷却されていない側の吸着塔から高温空気を後置フィルタに送り込んだためと推定。現在、再発防止対策を検討中。</p>